

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
28 - 76	高等学校	芸術	書道Ⅱ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
6教図	書Ⅱ 306	書Ⅱ		

1. 編修の基本方針

1. 基礎・基本的な書の技能の定着と、幅広い知識の習得。

用具・用材の特徴とその扱い方、姿勢・執筆法に始まり、漢字の各書体の特徴や変遷、仮名の種類や成立、ことばと書の表現との関係など、書道Ⅰの学習では、書の学習の基本となる内容を網羅的に学習してきました。書道Ⅱでは、書道Ⅰで学習したことを土台に、そこから段階的・系統的に各領域の内容を詳しく広く学ぶことで、幅広い知識と技法を身に付け、生涯にわたって書を愛好する心情を育てることを目指しました。

2. 個性豊かな表現と、創造的な鑑賞の能力を育成。

長い年月を経て現代まで遺る「書の古典」には、普遍的、恒久的な美しさに加え、斬新さや奇抜さ、独創性にあふれたものが数多くあります。直観的に作品の表面に現れた個性を感じ取るだけでなく、書を、作者の側や、時代、風土などの背景の面からも分析することで、論理的な思考の能力を高めることができます。また、そのような経験を通して、芸術を創造的に味わう力を養うことができます。

3. 思考力・判断力・表現力を養い、コミュニケーション能力を高める。

芸術とは、作者自身が生み出す自由な世界であると同時に、作者と鑑賞者の心の対話によって形成される限定的な世界でもあります。個々の学習者が、自ら考え主体的に表現することで、思考力、判断力、表現力が培われ、互いの作品を理解し合う活動によって、コミュニケーションが深まります。芸術の学習では、表現者、鑑賞者など、立場や意見の違う者同士が協働して課題を解決したり学び合うことで、互いの価値観を認め合い、グローバル社会を生き抜く力を身に付けることができます。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
口絵 書との出会いを楽しもう	○日常生活の中で「書」に触れることで、書の文化に親しみを持つとともに、伝統を大切にすることを育みます。 [第3・5号]	・口絵
鑑賞へのいざない 喪乱帖 石山切	○中国の書「喪乱帖」と日本の書「石山切」の鑑賞を通して、表現や美意識に対する感性を磨いていきます。 [第1・4号]	・前見返し3～p.3
Chapter 1 漢字の書の世界 (1)篆書の古典に学ぼう (2)篆刻・刻字に学ぼう (3)隸書の古典に学ぼう (4)草書の古典に学ぼう (5)行書の古典に学ぼう (6)楷書の古典に学ぼう	○豊富な写真資料、図版とともに古典について学び、伝統文化に親しみます。 [第5号] ○中国と日本の各時代を代表する書の古典の臨書と鑑賞の学習を通して、豊かな情操を育みます。 [第1・5号] ○古典の内容や作者について学び、自らの生活や生き方に生かそうとする姿勢を養います。 [第5号]	・p.8～9, p.18～19, p.24～25, p.34～35 ・p.10～15, p.26～31, p.36～39, p.42～47, p.50～57
Column 人と書 清時代の篆書と篆刻	○清時代の時代背景や趙之謙・呉昌碩等について知ることで、篆書や篆刻の歴史について理解を深めます。 [第5号]	・p.16～17
Column 文人の世界 清時代の隸書	○中国における文人について知ることで、中国の雅な文化について理解を深めます。 [第5号]	・p.32～33
Column 連綿の書 率意と用意	○率意と用意の書の違いと表現への現れ方について知ることで、感情と表現の関係について認識を深めます。 [第1・5号]	・p.40～41
Column 歴史の扉 文化の国風化と和様	○奈良～平安時代の日本の書と周辺文化について知ることで、風土や生活と文化の関係について認識を深めます。 [第5号]	・p.48～49
Column 人と書 鍾繇・王羲之	○鍾繇や王羲之の書と、彼らに影響を受けたと考えられる祝允明や光明皇后の書を比較することで、個性や創造性について認識を深めます。 [第5号]	・p.58～59
表現の窓 姓名印の制作	○漢時代の印の形式に倣って姓名印を制作することで、印の歴史と表現法について認識を深めます。 [第5号]	・p.20～21
表現の窓 刻字（陰刻）の作品制作	○木板とセラミックボードによる刻字作品の制作を行なうことで、現代における刻字の役割と意義について考えを深めます。 [第1・5号]	・p.22～23
表現の窓 漢字の書の作品制作	○漢字の書の作品制作を行なうことで、主体的に構想し、意図を実現するためのプロセスを大切にすることを育みます。 [第1・2・5号]	・p.62～63
作品鑑賞の部屋 みる・くらべる 近現代の漢字の書	○作品を比較しながら鑑賞し、他者と意見を交換することで、個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神を養います。 [第2・3号]	・p.60～61

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
Chapter 2 仮名の書の世界 (1)仮名の書的美を知ろう (2)仮名の書の古典に学ぼう	○豊富な写真資料，図版とともに古典について学び，伝統文化に親しみます。 [第5号] ○平安時代を代表する仮名の書の古典の臨書と鑑賞の学習を通して，豊かな情操を育みます。 [第1・5号] ○古典の内容や作者について学び，自らの生活や生き方に生かそうとする姿勢を養います。 [第5号]	・ p.64～65 ・ p.66～67 ・ p.68～73
Column 人と書 日本人の美意識	○継色紙，龍安寺石庭，松林図屏風の共通点を知ることで，日本人の美意識や感性について認識を深めます。 [第5号]	・ p.74～75
連綿・平仮名・変体仮名一覧	○高野切第一種と関戸本古今和歌集の，連綿・平仮名・変体仮名一覧により，臨書で学習したことを創作に生かす姿勢を養います。 [第1・5号]	・ p.76～77
作品鑑賞の部屋 みる・くらべる 近現代の仮名の書	○作品を比較しながら鑑賞し，他者と意見を交換することで，個人の価値を尊重し，自主及び自律の精神を養います。 [第2・3号]	・ p.78～79
表現の窓 仮名の書の作品制作	○仮名の書の作品制作を行なうことで，主体的に構想し，意図を実現するためのプロセスを大切にする姿勢を養います。 [第1・2・5号]	・ p.80～81
Chapter 3 漢字仮名交じりの書の世界 (1)思い・ことば・書 (2)古典に表現を学ぼう	○豊富な写真資料，図版とともに古典について学び，伝統文化に親しみます。 [第5号] ○思いとことば，書の関係を認識し，自由に表現することで豊かな情操を育みます。 [第1・2・5号] ○古典の書風や技法を参考にし，主体的に構想し，意図を実現するためのプロセスを大切にする姿勢を養います。 [第1・2・5号]	・ p.82～83 ・ p.84～85 ・ p.88～93
表現の窓 漢字仮名交じりの書の作品制作	○漢字仮名交じりの書の作品制作を行なうことで，主体的に構想し，意図を実現するためのプロセスを大切にする姿勢を養います。 [第1・2・5号]	・ p.86～87
Column 人と書 森田安次	○森田安次について知り，作品「風の又三郎」の構想と実作の過程を森田自身が書き残した文章を読むことで，創造性についての認識を深めます。 [第1～5号]	・ p.94～95
作品鑑賞の部屋 みる・くらべる 近現代の漢字仮名交じりの書	○作品を比較しながら鑑賞し，他者と意見を交換することで，個人の価値を尊重し，自主及び自律の精神を養います。 [第2・3号]	・ p.96～97
生活の中の書 生活に書を生かそう	○日常生活に書を生かすことで，伝統と文化を尊重する心を育みます。 [第3・5号]	・ p.98～99
書道用語集 書を収蔵する主な美術館・博物館 書の変遷を知ろう 中国・日本 書道史関係地・資料参考地図	○書を収蔵する美術館・博物館について知り，伝統文化を尊重する態度を養います。 [第5号] ○中国や日本の書の関係地を地理的に理解することで，異文化に親しみを持つ心を育みます。 [第1・5号]	・ p.100～101 ・ p.102～103 ・ p.104～111 ・ p.112～113

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

❖ 内容の選択・程度 ❖

- ・学習指導要領に示されている目標・指導事項を無理なく確実に学習できるよう内容を精選し、現場の実態に則した単元や教材の配列を工夫しました。
- ・教材となる古典は、各時代を代表する基本的なものを選択しました。

❖ 組織・配列・分量 ❖

- ・各領域においては、書道Ⅰの学習内容を振り返る「Check!」や、書道Ⅱの学習を深めるための「豆知識」の囲みを設け、生徒が主体的、意欲的に学習に取り組めるように配慮しました。
- ・段階的に書の学習を進めることができるよう、領域や単元の配列を工夫しました。

❖ 教育課題への対応と配慮 ❖

【言語活動】表現における作品制作や鑑賞の学習において、積極的に意見を交換し、互いの考えや発想を共有する機会を設けるように配慮しました。

❖ 表記・表現 ❖

- ・解説や文章は、簡潔でわかりやすい表現を心がけました。また、初出箇所にはふりがなを付記し、重要語句が一目でわかるようにフォントや文字の大きさを工夫しました。
- ・カラーバリアフリーの観点から、全ページにわたって配色を点検し、見やすくわかりやすい紙面を心がけました。

❖ 印刷・造本 ❖

- ・古典図版の臨場感を重視し、鮮明で美しい印刷に配慮しました。
- ・学習の際の机の大きさを考慮し、教科書を半分に折り畳んで置くことができるような表紙・本文用紙の厚さと紙質、製本の際の糊の柔軟性などに配慮しました。
- ・教室での蛍光灯の反射を防ぐため、全編にマットな用紙を使用し、見返しや折込の用紙は耐久性を考慮して本文用紙より厚く強度の高いものにしました。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
28 - 76	高等学校	芸術	書道Ⅱ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
6教図	書Ⅱ 306	書Ⅱ		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

●基本方針

- ①基礎・基本的な書の技能の定着と、幅広い知識の習得を目指します。
- ②個性豊かな表現と、創造的な鑑賞の能力を育成します。
- ③芸術の学習をとおして、思考力・判断力・表現力を養い、コミュニケーション能力を高めます。
- ④身の回りの文字や書に関心を高め、情報社会を生き抜く力を育成します。

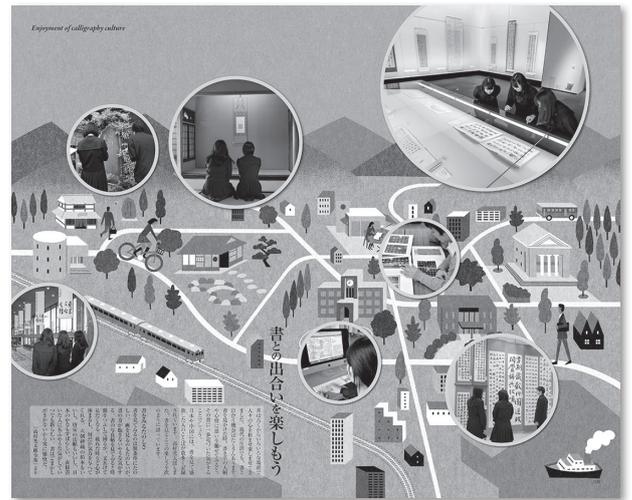
●構成と配列

口絵

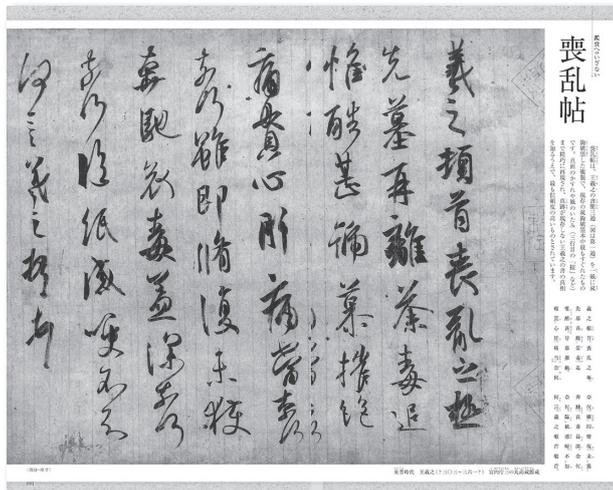
現代の文字文化について考える機会として、口絵「書との出会いを楽しもう」を設けました。現代の生活では、文字は手書きから入力するものへと移行しています。しかし、漢字が誕生してから約3000年、仮名が成立してから約1000年、私たちは文字を手書きしてきました。長い歴史と文化を尊重し、人々の営みの積み重ねである伝統を次代へ受け継ぐ心を育成することをねらいとしています。

鑑賞へのいざない

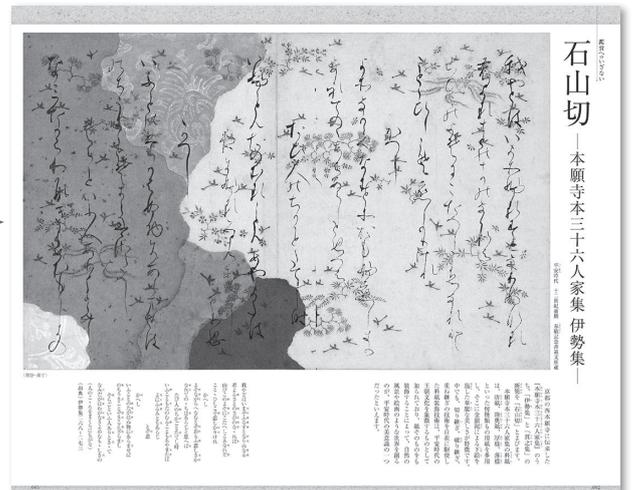
・双鉤填墨本「喪乱帖」、継ぎ紙の「石山切」、いずれも中国と日本の書の文化を象徴する様式・形式・用具用材で書かれた作品であり、両者を比較しながら鑑賞することで、中国と日本の文化や美意識の違いをあぶり出すなど、これから始まる書道Ⅱの学習の導入として活用できます。



口絵「書との出会いを楽しもう」



前見返し3～p.001「喪乱帖」



p.002～003「石山切」

漢字の書の世界・仮名の書の世界

・書道Iで既に学習した古典も、基礎・基本の確実な習得を目標にしているため、重複掲載しています。



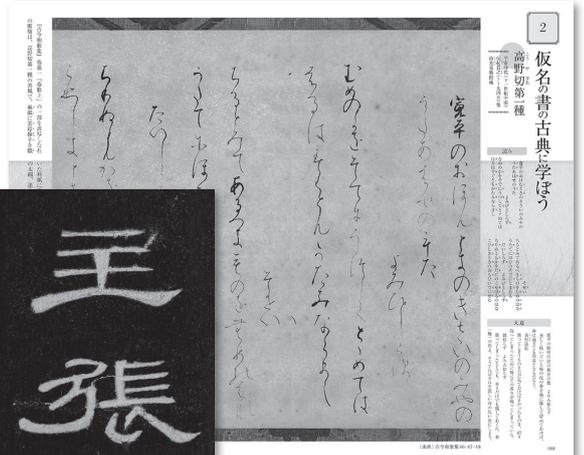
p.010 ~ 011 泰山刻石



p.026 ~ 027 曹全碑



p.068 ~ 069 高野切第一種



漢字仮名交じりの書の世界

・構想を練り、作品を仕上げる過程をていねいに紹介しています。また、古典に基づく表現は12点の豊富な書風の作例を掲載しました。「コラム人と書」では、森田安次を取り上げ、作品が生まれた背景や作者の思いまで理解できるようにしました。



p.086 ~ 087 表現の窓



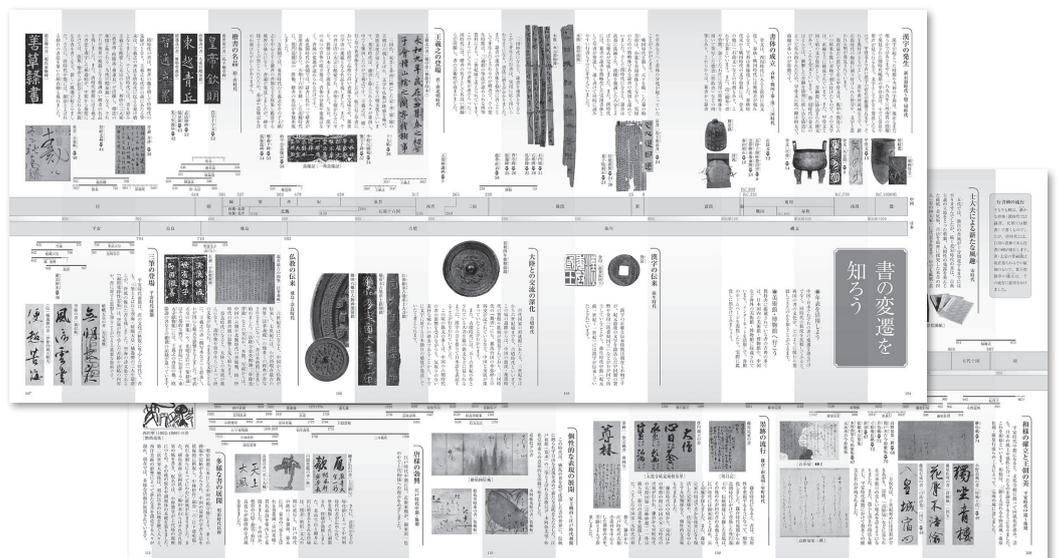
p.088 ~ 089 古典に表現を学ぼう



p.094 ~ 095 コラム 人と書 森田安次

資料

・巻末には、「書道用語集・書を取蔵する日本のおもな美術館・博物館、中国・日本書道史関係地・参考地図」の他、年表形式で書の変遷を辿る「書の変遷を知ろう」(折込)を掲載しました。中国・日本の同時代の人物や作品を比較しながら学習したり、通史として眺めることが可能です。また、書道Iで学習した内容の確認にも活用できます。



p.104 ~ 111 書の変遷を知ろう (巻末折込)

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容		該当箇所	配当時数
	A 表現	B 鑑賞		
口絵 書との出会いを楽しもう		ア・ウ	前見返し1・2	
鑑賞へのいざない 喪乱帖 石山切		ア・イ・ウ ア・イ・ウ	前見返し3・p. 1 p. 2～3	
Chapter 1 漢字の書の世界		イ	p. 6～7	
①篆書の古典に学ぼう Column 人と書 清時代の篆書と篆刻	(2)ア・イ・ウ	ア・イ・ウ ア・イ	p. 8～15 p.16～17	
②篆刻・刻字に学ぼう 表現の窓 姓名印の制作 表現の窓 刻字（陰刻）の作品制作	(2)イ・ウ・エ (2)イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ・エ	ア・イ・ウ ア ア	p.18～19 p.20～21 p.22～23	
③隷書の古典に学ぼう Column 文人の世界 清時代の隷書	(2)ア・イ・ウ	ア・イ・ウ ア・イ	p.24～31 p.32～33	
④草書の古典に学ぼう Column 連綿の書 率意と用意	(2)ア・イ・ウ	ア・イ・ウ ア・イ	p.34～39 p.40～41	
⑤行書の古典に学ぼう Column 歴史の扉 文化の国風化と和様	(2)ア・イ・ウ	ア・イ・ウ イ・ウ	p.42～51 p.48～49	
⑥楷書の古典に学ぼう Column 人と書 鍾繇・王羲之	(2)ア・イ・ウ	ア・イ・ウ ア・イ	p.52～57 p.58～59	
作品鑑賞の部屋 みる・くらべる 近現代の漢字の書		ア・イ・ウ	p.60～61	
表現の窓 漢字の書の作品制作	(2)ア・イ・ウ・エ	ア・イ・ウ	p.62～63	
Chapter 2 仮名の書の世界		ア	p.64～65	
①仮名の書の美を知ろう	(3)ア	ア・イ	p.66～67	
②仮名の書の古典に学ぼう	(3)ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	p.68～73	

図書の構成・内容	学習指導要領の内容		該当箇所	配当時数
	A 表現	B 鑑賞		
Column 人と書 日本人の美意識		ア・イ・ウ	p.74～75	
連綿・平仮名・変体仮名一覧	(3)ア・イ	ア	p.76～77	
作品鑑賞の部屋 みる・くらべる 近現代の仮名の書		ア・イ・ウ	p.78～79	
表現の窓 仮名の書の作品制作	(3)ア・イ・ウ・エ	ア・イ・ウ	p.80～81	
Chapter 3 漢字仮名交じりの書の世界		ウ	p.82～83	
①思い・ことば・書	(1)イ・エ	ア・ウ	p.84～85	
表現の窓 漢字仮名交じりの書の作品制作	(1)ア・イ・ウ・エ	ア	p.86～87	
②古典に表現を学ぼう	(1)ア・イ・ウ・エ	ア・イ・ウ	p.88～93	
Column 人と書 森田安次		ア・イ・ウ	p.94～95	
作品鑑賞の部屋 みる・くらべる 近現代の漢字仮名交じりの書		ア・イ・ウ	p.96～97	
生活の中の書 生活に書を生かそう	(1)ア・ウ・エ	ウ	p.98～99	
書道用語集 書を収蔵する日本のおもな美術館・ 博物館 書の変遷を知ろう 中国・日本書道史関係地・資料 参考地図		イ・ウ ウ イ・ウ ウ	p.100～101 p.102～103 p.104～111 p.112～113	

編修趣意書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学校	教科	種目	学年
28 - 76	高等学校	芸術	書道Ⅱ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
6教図	書Ⅱ 306	書Ⅱ		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項	ページ数
92	力強く伸びやかな表現を石門頌に学ぼう ゆったりとして伸びやかな表現を居延漢簡に学ぼう	1	4 内容の取扱い(2) 内容のAの指導に当たっては、(1)の漢字は楷書、行書及び草書、仮名は平仮名及び片仮名、(2)は楷書、行書、草書、隷書及び篆書、(3)は平仮名、片仮名及び変体仮名を扱うものとする。	1
			合計	1